

1. 学校の教育目標

「わが学園は、教育を通して『努力心』『誠実心』『独立心』を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする」本学園の建学の精神をもとに
①社会を見つめ、自己の進路実現がかなうよう、指導支援する。
②生徒個々の自学力が向上するよう指導支援する。

2. 教育目標具現化の施策

①本校の伝統を継承しつつ、新しい時代の教育要望に応える学校を構築する。
②教職員全員が自己の教育力を伸ばすと共に、学校の発展を進める。
③地域・中学校・大学・専門学校等との連携を強め、本校の存在意義や教育方針を広く浸透させる。
④教育相談やアップルームの活動を積極的に取り組み、理解を深める。
⑤学校安全を徹底し、安心して学校生活ができるよう環境を整える。

2021年度の取組目標とその評価

取りまとめ	取組目標	取組報告	評価
教務	生徒一人ひとりを向上させる指導方法の工夫・改善を図る	「楽しい授業」を実施した。	B
		アクティブラーニングの研究と授業実践をした。	
		校内研修の充実を図った。	
		放課後補習により自学自習・学習習慣の定着を図った。	
		I C T教育を推進するため、研究を進めた。	
		教育課程の研究を進めた。	
	教育システムの充実	英語・数学・簿記の習熟度別クラス編成を実施した。	
		ユニットベースを有効活用した。	
	学校行事の充実	コロナ禍での行事開催に取り組んだ。	
	課題	タブレット端末を使用する生徒数が今後増加するため、さらにI C T教育を推進する必要がある。コロナ禍と生徒の特性を考慮するアクティブラーニングの研究を行う。	
	今後の改善方策	教科ごとの事例を集約し、成功事例を共有する。「楽しい授業」の検証を重ねていく。	

進路指導	進路学習の充実	生徒・保護者対象の面談を計画的に実施した。	B
		3年間を見通した進路指導を計画し実践する。	
		進路学習ブックの見直しをした。	
		東海大学付属推薦希望者への進路指導を計画的に実施した。	
		学生課就職担当・就労移行支援事業所「I ビリーブ」との連携を深めた。	
	課題	3年間を見通した指導を実践できているか。	
	今後の改善方策	教員研修を早期の段階で実施する。	

生徒指導	校内指導	あいさつ、言葉使いなどの基本となるマナーの定着を図った。	B
		服装や頭髪、その他の学校規則に対する意識を高め、守らせた。	
		公共心・道徳心を養い、お互いを尊重する心を育成した。	
	校外指導	学校周辺パトロールを実施した。	
		警察や周辺の学校との連携を取り、情報交換した。	
		学校周辺のコンビニを巡回し、利用マナーの定着を図った。	
	課題	コロナ禍のため、学校周辺のパトロールは実施できなかった。挨拶や言葉遣いの指導が不十分なため、進路活動の前に指導することがあった。	
	今後の改善方策	新型コロナ感染防止のために注意しながらパトロール等を実践していく。	

教育相談	教育相談	教職員が連携し生徒情報を共有しながら教育相談の充実に努めた。	A
		教員研修を実施した。	
	課題	生徒情報の共有を速やかに実施する。	
	今後の改善方策	定期会議以外でも、生徒情報の共有化を図る。	

保健安全	生徒の健康管理	定期健康診断の実施と、生徒の健康管理を行った。	B
		健康診断結果による勧告書を発行・回収した。	
		時期に応じた保健情報を提供した。	
		熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス等の流行情報を速やかに伝えた。	
		保健室の維持管理を実施した。	
		保健室の適切な利用を指導した。	
		清掃の計画と実施、点検を実施した。	
	傷病事故の管理	傷害事故の把握（教科担当と担任との連携を密にする）をした。	
	課題	新型コロナ感染防止の取り組みは実践できたが、それ以外については不十分であった。保健室利用について、事後処理が不十分であった。	
	今後の改善方策	保健室利用について、教員で情報共有し理解する。	

防災安全	災害時の対応	避難訓練を実施した。	B
		防災計画を作成（火災・地震・津波・風水害）した。	
		防災備品を点検・管理・購入した。	
		防災教育を推進した。	
	課題	日常的に防災学習が必要である。	
	今後の改善方策	教員研修の実施と、生徒の定期的な学習を年間計画に位置付ける。	

施設管理	学校施設の整備	施設安全点検を実施した。	B
		情報関係施設管理を実施した。	
	課題	情報関係備品の取り扱いが不十分であった。	
	今後の改善方策	使用ルールの徹底と、毎月の点検を実施する。	

生徒会	生徒会活動・諸行事を通じてリーダーシップの育成を図る	生徒会活動の推進、企画、実施を図った。	B
		執行部の指導、支援を図った。	
		諸行事の指導、支援を図った。	
		ボランティア活動に関する事項を提案、支援した。	
		生徒会ブログの編集・運営を推進した。	
	課題	ブログの更新が不十分であった。	
	今後の改善方策	活動のスケジュールを見直す。	

特別支援 教育	1人ひとりの特性 に配慮した指導を 行う	個別支援計画を作成した。	A
		個別支援計画、個人票の書式を見直した。	
		生徒・保護者面談を定期的を実施した。	
		保護者勉強会を企画・実施した。	
		校内研修の充実を図った。	
		医療機関等専門機関と連携した。	
		進路について早期から就労移行支援事業所「I ビリーブ」と連携し、指導・相談を実施した。	
	課題	個別支援計画、個人票の記載について不十分であった。	
	今後の改善方策	定期的に研修を実施する。	

入試委員会	入試広報活動の充実	学校案内、募集要項を作成した	A
		広報制作物を作成した。	
		H Pを管理した。	
		学校説明会・体験入学を運営した。	
		外部相談会に参加した。	
		中学校訪問を実施した	
	課題	中学校訪問の時間確保が難しかった。	
	今後の改善方策	業務の効率を上げ、教員間で協力して中学校訪問の時間を見出す。	

評価実施者 岩谷学園高等専修学校教職員

\* 各評価項目における評価点(「適切:4」、「ほぼ適切:3」、「やや不適切:2」、「不適切:1」)その平均値(少数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示)を以下の基準により表示した。

評価	基準
A	4. 0～3. 6
B	3. 5～3. 1
C	3. 0～2. 6
D	2. 5以下